



地域共生応援大使  
ふっころ

あなたとフクシを結ぶコミュニケーション誌

# 福祉だより 信州

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 ふれあいネット信州 <https://www.nsyakyo.or.jp/>

vol.807  
AUG.2023

編集・発行  
長野県社会福祉協議会



## CONTENTS

ちいきとあなたと、ともに暮らす…………… 2P

障がいがあっても  
一人ひとりが自分らしい生活にむけ

**特集** 日本地域福祉学会開催  
第37回大会(長野大会)レポート…………… 4P

おらほの縁パワー  
ふっころ Information…………… 7P

あんみら通信…………… 8P



「福祉だより信州」は  
共同募金の配分金で  
発行されています。



# 障がいがあっても 一人ひとりが自分らしい生活にむけ



毎号福祉の現場に新しい風を吹き込む  
スタッフをご紹介します。

社会福祉法人 中信社会福祉協会 (松本市)  
グループホーム みすぎの森

生活支援員 みちだ くみ こ 道田 久美子さん

障がいのある人もない人も誰もが互いを理解し、支え合い、暮らしやすい社会づくりを進める長野県。そのなかではどのような視点や発想が必要でしょうか。手話が第一言語のろう者であり、グループホームの生活支援員として働く道田久美子さんの話から、そのヒントを探ります。

## 「きこえない・障がい者=かわいそう、できないことが多い」のイメージを覆すために



1



2



3



4

日本地域福祉学会第37回大会（長野大会）

①介護サービス包括型のグループホーム「みすぎの森」で個々の利用者のライフステージに応じた生活を支える道田さん。利用者との交流は利用者のために文字盤を活用。  
②④長野大学で行われた日本地域福祉学会で仕事の内容やこれまでの取り組みについて発表した道田さん。「医学モデルから社会モデルへ」と今後の目標を語った。  
③発表や打ち合わせは手話通訳を通して行いました。

### チャレンジと工夫で周囲との相互理解を

家族全員がろう者というデフファミリーで育ち、ろう学校を経て長野大学社会福祉学部を卒業後、中信社会福祉協会のグループホーム「みすぎの森」で働いて6年目となる道田久美子さん。職員とも利用者ともスムーズにコミュニケーションを図り、「聴者との違いはきこえないだけで、あとは皆と同じだと、障がいをそこまで意識していない」と話す明るい笑顔からは、充実した生活の様子が伝わってきます。

しかし、今に至るまではさまざまな努力がありました。大学の授業では音声認識アプリの導入を大学側に提案し、希望する友人には手話を教え、周囲との意思疎通を実現。就職の面接時はコミュニケーションの不安を伝えられたそうですが、障がいによって仕事に限界があると思われたくないと「とにかくチャレンジをしたい、自分なりの方法で工夫をしたい」と応えたそうです。実際に入職後は、ろうについての“トリセツ”を作成し、音声認識アプリや利用者のための文字盤なども活用しつつ、周囲との相互理解を図っていきました。その前向きな姿勢が次第に周りを動かし、居室やトイレのコールランプを視覚化する装置の工夫では他の職員からのアイデアも受け、予算化もされるように。「自ら要望しなければ何も変わらない」との思いを強くしたと同時に、理解し合う可能性の模索の大切さも実感したと話します。

### 個性を認め合う共生社会をめざして

その一方で、これまでろう者に対する偏見やマイナスイメージの多さも感じてきたという道田さん。そこで共生社会の実現に向け、地域で手話指導をしながら正しい知識や文化を伝えたり、長野県聴覚障害者協会青年部の役員として、社会で孤立する若いうら者との交流を進めたりと、さまざまな活動を展開しています。

「大学時代は私がろう者だと知ってもらいたい気持ちが強かったのですが、就職後、いろいろな人と触れ合うことで、一人ひとりの違いを自然と受け入れ、それぞれが主役であると理解しました。それは、互いに関わり合っただけで会話することで少しずつ理解が深まります。だからこそ、ろう者である私には、周囲にろう文化を伝えて情報発信していく責任があると感じています」

「みすぎの森」においても、利用者と一緒に地域の祭りや活動などに積極的に参加している道田さん。障がい＝ネガティブなイメージをなくし、違いを認め合う社会をつくるために、社会的障壁をなくす活動に意欲的に取り組む情熱は、着実に周囲に広がっています。

#### 社会福祉法人 中信社会福祉協会 グループホーム「みすぎの森」

【住所】松本市大字内田 189 番地 1  
【電話番号】0263-86-3370  
<http://chushin-sws.jp/misuginomori/>

ホームページ



# 日本地域福祉学会 第37回大会（長野大会）

2023年6月10日（土）～11日（日）

上田市交流文化芸術センター「サントミュージゼ」、長野大学

大会テーマ

## 地域福祉が目指す 「あんしん未来」を問う

### 時間のつながりと 地域循環の視点から考える

大会1日目の記念講演で「いのちに寄り添う」をテーマに熱く語る鎌田實氏



上田市交流文化芸術センター サントミュージゼ

## 日本地域福祉学会開催

全国に先駆けて制度化された「家庭養護婦派遣事業（現ホームヘルプ・サービス）」発祥の地である上田市を会場に、全国の地域福祉の研究者や実践者等の関係者約400名が一堂に会して学びを深める、日本地域福祉学会が盛大に開催されました。

学会では人々の共感力を高め、人と人、人と資源、人と自然が、世代、分野、空間や時間を超えてつながり、住民一人ひとりの存在が尊重され、生きがいをもって暮せる地域を皆でつくっていく地域共生を社会の実現に向け、日頃の研究や実践の発表を行いました。

### 大会プログラム —1日目—

〔記念講演〕「いのちに寄り添う」をテーマに諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏に、一人ひとりが健やかに人生をまっとうできるために地域福祉から個々のいのちにどのように寄り添い、実践として取り組むかについて講演しました。

〔大会企画鼎談〕「長野県の地域福祉の源流を探る —住民自治といのちを守る—」と題して、佐久大学理事長の盛岡正博氏、長野県社会福祉協議会長の藤原忠彦氏、日本社会事業大学名誉教授の大橋謙策氏の三者による鼎談が行われました。

本県の地域福祉の源流として、農

村医療の普及活動による健康等の正しい知識の伝達過程は今日の地域福祉展開に大きく影響していることから、住民自治と人々の暮らしやいのちの関係性を再確認しました。

〔大会企画シンポジウム〕「孤独・社会的孤立にどう向き合うか —地域福祉の挑戦—」をテーマに、対処



大橋謙策氏、藤原忠彦氏、盛岡正博氏の三者による鼎談



大会企画シンポジウム

療法や支援だけではなく、これからの社会保障、地域共生社会、ダイバーシティやインクルージョン、包括的支援体制のあり方を考えました。

## 大会プログラム —2日目— 〔第20回日本地域福祉学会・地域福祉優秀実践賞受賞式〕

東御市社会福祉協議会が、第3回大会優秀実践賞の茅野市に続く、県内2例目の受賞となりました。



東御市社会福祉協議会  
会長 横山 好範氏

東御市社協は、個別課題の背景にある社会課題に対して独自の資源開発に取り組んできた組織的なソーシャルワーク実践の「先駆性・独創性」が高く評価されました。加えて、独自の取組を推進するために、市民との協働、行政や学校との多機関協働、多職種連携、大学や地域の多様な事業所といった福祉分野を越えた連携・協働の実践課程は「地域づくり」等の観点でも高い評価を受けました。この実践が、ミクロ・メゾ・マクロレベルで体系的かつ組織的に取り組まれている部分が総合的に評価されました。

〔20周年記念企画〕 節目の大会ということもあり、過去19回にわたり受賞された団体の受賞当時の実践と、現在につながる経過とともに、受賞した先駆的な実践がこの間の地域福祉の状況をめぐる変化を踏まえ、どのように発展しているのか報告がありました。

〔自由研究発表〕 「地域福祉の諸活動・権利擁護」や「災害と地域福祉」等の10のテーマで77名の研究内容が発表されました。長野県社会福祉協議会からは、「県内のケアリーバーの状況と多機関連携の必要性」、「クラウド』を活用した災害時要援護者情報の流通と規制に関する考察」、「被災者支援における災害コミュニティソーシャルワークの機能の確立」に関して発表しました。



自由研究発表の様子

〔日韓学術交流企画〕 「日韓における孤独・孤立対策」として、日韓両国に共通する社会問題の解決に向けた支援方策が検討されている共通のテーマについて、お互いの政策や実践から支援のあり方を探りました。

〔開催地企画〕 「信州発・共生の未来に向けて —未来志向の地域福祉実践を探る—」をテーマにシンポジウムを行いました。

合同会社小滝プラス代表社員の樋口正幸氏からは、長野県北部地震において被災した栄村小滝集落が「300年後に小滝を引き継ぐ」ビジョンを掲げ、空き家再生による交流拠点づくりやブランド米開発の実践報告がありました。

NPO法人わっこ谷の山福農林舎代表の和栗剛氏からは、筑北村を中心に地域の宝(農業、林業、エネルギー、人など) および福祉・教育をつなげて協力し合える「輪」をつくり、誰もが力を発揮できる住みよい社会を目指した取組の紹介がありました。

御代田町社会福祉協議会福祉係主任の山田翔太氏からは、地域で育まれた少年が、地域のあらゆる課題に向きあうコミュニティワーカーに成長し、「共に歩み」、「共に育つ」ことで、地域への恩返しだけではなく、未来への恩渡しとして未来のために豊かなつながりをつくる種まき人になろうという決意表明がありました。

中信社会福祉協会グループホーム「みすぎの森」生活支援員の道田久美子氏からは、障害者支援施設の生活支援員として、きこえないことのネガティブなイメージを転換するために様々な取り組みを通して職員や利用者・利用者家族に理解を得てきた実践報告がありました。



開催地企画シンポジウム

## 学会を終えて

人口が集中する都市型の地域福祉とは異なり、長野県は小規模の自治体が多く、また過疎中山間地等の様々な課題を抱える地方型地域福祉も視野に入れた研究発表が行われました。

4年ぶりの対面開催ということもあり、コロナ禍からの脱出に先駆け、地域社会の再評価を検討するうえで、地域社会をより強化し、人々が共に支えあえる社会づくりである「あんしん未来」の創造にむけ、改めて研究と実践の双方向に取り組むことの大切さを確認することができました。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

# ボランティア活動保険

商品パンフレットは  
こちらから  
(ふくしの保険ホームページ)



## 保険金額・年間保険料 (1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償		
賠償の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

\*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

## <重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



## ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

## 送迎サービス補償

(傷害保険)

## 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
 保険会社  
 TEL: 03 (3349) 5137  
 受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)  
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
 TEL: 03 (3581) 4667  
 受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12223より抜粋して作成)

令和5年度  
社会福祉施設  
総合損害補償

# しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、  
障害者支援施設、  
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で  
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

## プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

### ① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

### 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
 保険会社  
 TEL: 03 (3349) 5137  
 受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

### 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
 TEL: 03 (3581) 4667  
 受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)



## プラン1 オプション5 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

## プラン2 施設利用者の補償

## プラン3 職員等の補償

## プラン4 法人役員等の補償

(SJ22-12033から抜粋)



the power of our bond

# おらほの縁パワー活動

住民が自分たちの地域のため、つながり、ひろがりながら行うパワーあふれる活動を紹介します。

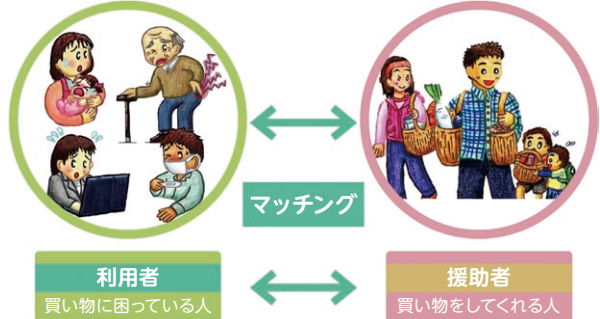
## 買い物ボランティアマッチングサービス「えんじよるの」

えんじよるのは、「買い物に困っている人」と「地域のボランティア」を、電話着信を入れるだけでマッチングできるシステム。「ボンジョルノ（こんにちは）」と挨拶して「エンジョイ」しながら援助する。この仕組みを思いつき、立ち上げたのは、御代田町に暮らす美齊津康弘さん。きっかけはご自身の子どもの時代の経験からでした。

美齊津さんが小学5年生の頃、お母さんが若年性認知症を発症しました。そこから美齊津さんの生活は一変します。学校ではいつも通り過ごすことに努め、自宅ではお母さんの認知症の進行を目の当たりにしながらの介護の毎日。自分から他者を頼ること、誰かに気持ちを話すことは一切考えられなかった、誰も助けられないと思っていたと美齊津さんは当時を振り返ります。

「地域の大人が関わってくれる、気にかけてくれる、そんな地域になったら」という思いから、口だけでは「助け合い」は広まらないと考え、「仕組み」を広げれば良いのだと「えんじよるの」を立ち上げました。困っている人が気軽に頼める、そんな仕組みづくりを奔走します。2020年から、いよいよサービスの開始。38名の「買い物に困っている高齢者」と105名の「買い物ボランティア」の登録がありました。しかし、実際には「えんじよるの」を使ってくれる高齢者はあまりいませんでした。原因は、「ボランティアが見つからない可能性があることへの不安」や「知らないボランティアが来ることへの不安」にあることがわかりました。そこで、2022年からは御代田町社会福祉協議会が主体となって「えんじよるの」のシステムを使い、この活動を進めています。昔から地域活動やボランティアを応援してきた社協の信頼と美齊津さんの強い思いで、一步一步、助け合いの輪が広がっています。

えんじよるのとは…



「買い物に困っている人」と「買い物をしてくれる人」をマッチングするウェブシステムです。



美齊津康弘さん

買い物ボランティアマッチングサービス

# えんじよるの



●お問合せ先

一般社団法人 生活互助支援の会  
長野県北佐久郡軽井沢町

E-mail [enjorno.project@gmail.com](mailto:enjorno.project@gmail.com)



## ふっころ インフォメーション information

### 長野マラソン大会組織委員会様より ご寄付をいただきました

6月20日に長野マラソン大会組織委員会様から、4月23日に長野市で開催された第25回長野マラソン大会の公式グッズの売上金から10万6800円のご寄付をいただきました。今後、交通・災害遺児支援等の事業のために活用させていただきます。



右：長野マラソン大会組織委員会 矢島哲郎 副会長  
左：長野県社会福祉協議会 竹内善彦 常務理事

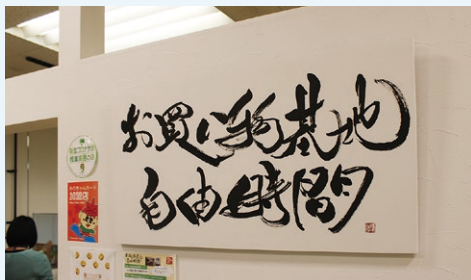


制度の狭間にある個別の課題に気づき、多様な仲間と共有し、未来志向の発想で共に考え、課題解決に向けて実践。そんな取り組みを紹介します。



## あなたの居場所と住まい方を支え応援します

居住支援法人とは、高齢者や障がい者等の住宅確保要配慮者が民間賃貸住宅へのスムーズに入居できるよう支援するため、入居に係る相談や見守りなどの生活支援等を実施するものです。



社会福祉法人ふれあい  
Toiro Base (十色基地)  
〒399-4603  
長野県上伊那郡箕輪町三日町  
861-2 (宮坂組箕輪町支店敷地内)  
TEL: 070-3159-5081  
E-mail toirobase@gmail.com

◆理事長 東孝雄さん

“社会福祉法人ふれあい”は長野県で5法人目の居住支援法人として令和5年3月に県の指定を受けて活動しています。

「お買い物基地 自由時間」は、イオン箕輪店の一角によらず相談所を開設し、誰に相談したらいいのかわからない生活全般に関する相談を受けたり、介護予防や生活支援のサービスを提供したり、専門的な相談機関につないだりする役割を担っています。

「Toiro Base (十色基地)」は箕輪町内で、「今日行く(場所に困ったら)、共育(一緒に歩む) 協育(助け合う)」する場所として、1階は居間や調理ができるフリースペース、2階はお泊り基地として、住まいに困った方を受け入れる宿泊場所として開放しており、時には近隣の子ども達が集う子ども食堂の会場としても活用されています。理事長の東孝雄さんは「自分たちの強みを生かし、何ができるのかを考えた時、よらず相談の受付と、相談から寄せられた住居の課題への対応として、空き建物を活用した居場所とボランティア的な住宅の提供を思いつきました。様々な制度やサービスを組み合わせ、老いを共に楽しむことができる地域社会を目指します。」と話します。

どんなことでも相談することができ、住居に困った時には一時的に生活の基礎を守る場所を提供し、その人の生活の安定と再建をお手伝いしてくれる、そんな十人十色の悩み事に寄り添いながらきめ細やかな支援を通して、あんしんを紡ぐ姿を見せていただきました。



### 『無題』

墨書

作者：熊井 宏武 (49才・松本市在住)

雨上がりの畑だろうか？それとも草原なのだろうか？どんな植物なのだろう。花が咲いている。植物はリズムカルに整然と並んでいる。そしてそれらの植物の上にはカエルとカタツムリがユーモラスな表情でちょこんと載っている。雨が止んだ後のさわやかな風が吹いている。気持ちのいい湿り気や草の匂いさえも感じられる。観る者の五感をくすぐり、想像力を掻き立てる。熊井さんの絵はこういった同じパターンのモチーフが繰り返し配置されるものが多いが、それ以上にじっくりと対象物を観察し、想像力もはたらかせて楽しい世界を描いている。まさに熊井さんのワンダーワールドだ。

(ながのアートミーティング 関 孝之記)



Webサイトもご覧ください!

ご感想・お問合せ・掲載希望等は  
下記へお寄せください

長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ  
TEL 026-228-4244/FAX 026-228-0130  
E-mail info@nsyakyo.or.jp

